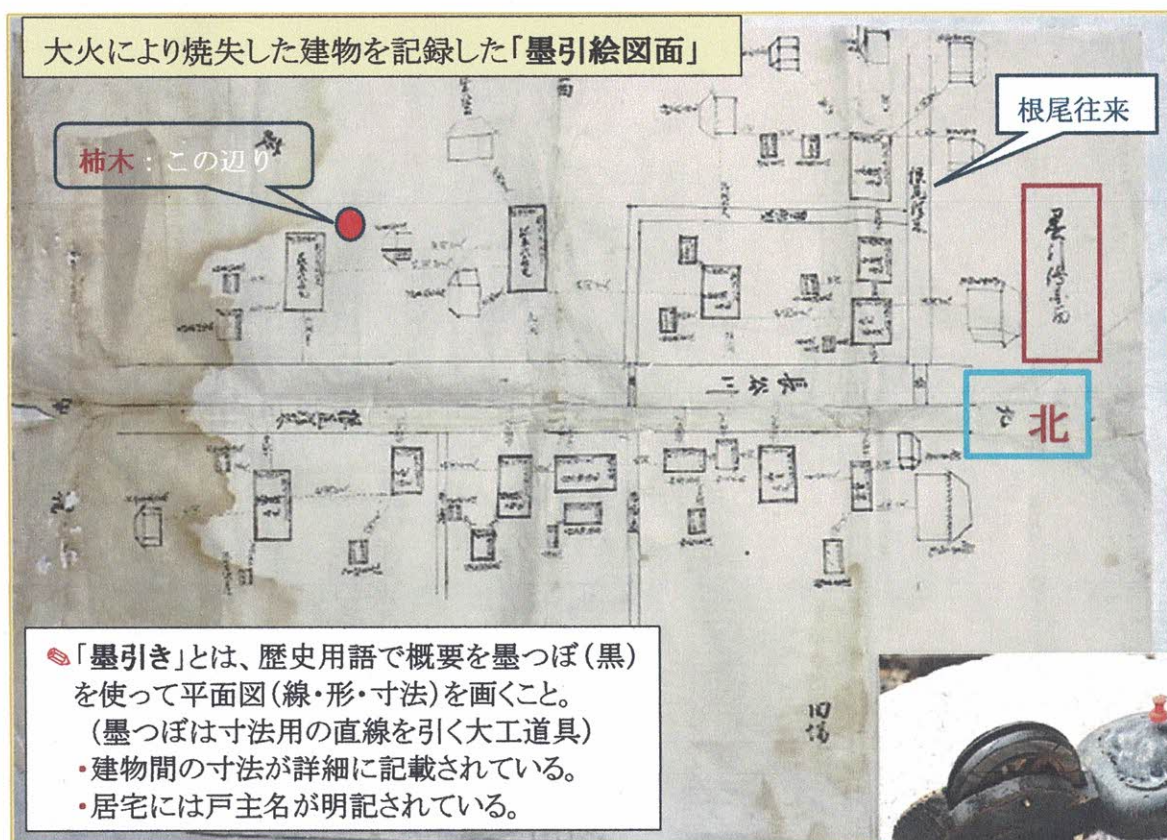


江戸時代末期

木知原の大火 村の三分の一を焼きつくした

“林英治氏の屋敷に表皮が南側半分しか残っていない柿の木があったことをご存じですか。子供の頃から“昔の大火事がこの辺りでストップした”ことを物語っている木だ！”と聞かされてきたが詳細は分らず村人も“大火があった”程度の聞き伝えであったと思われた。

🗨️ ことがコトだけに多くを語らなかったものと思うが、今回その大火の記録図面を紹介します。
(資料については付度無し:史実としての概要把握のみに留め置きましょう)



大火の期日記載は無いが:家並みから推測すれば長谷川が整備され浦山裾野(上の段)から平地への移転が進んだ江戸時代後期の大火である。

🗨️ 焼失した建物:居宅・蔵・小屋・雪隠(便所)など42棟。うち居宅の20棟が読み取れる。

🗨️ 当時の居宅数:60戸前後(明治5年64戸)で村の三分の一にも及ぶ居宅が焼失した。

🗨️ 図面方位:図面右が「北」で文字も読み取りにくい「それで良し」としましょう。

🗨️ 村が大きく変貌し始めた最中の大火でその惨状は“筆舌に尽くしがたし”であったことでしょう。勿論当時は茅葺屋根で火の回りが早くまた飛び火による延焼もありなすべ無かったと思う。

🗨️ 木知原の歴史上最大の惨事とも言える大火でありながら200年以上も誰の目にも触れることのなかった貴重な資料に接しられたことを各人の心に留め置きたいものです。

♥「今昔」は今回の様に不定期発信となりますし内容が今昔の視点からずれる場合もありますが番号は継続としますので宜しく。今しばらくお付き合いください。自信はないですが…